



外来種勉強会 in 東小学校



2021年5月11日(火) 天気 曇り 東小学校

長久手市内でも特に多様な生き物が生息する校区、東小学校。2019年に引き続き、4年生約80人が外来種について学びました。

1 「外来種」ってなあに？

東小4年生担当の稲井先生から、今日取り上げる「オオキンケイギク」が紹介されました。外来種とは、もともとその地域にいなかったのに、人間によって他の地域から入ってきた生物のこと。花を見て楽しむため(観賞用)として日本へ持ち込まれました。

2 「外来種」はなぜいけないの？

～生態系は“イス取りゲーム”

「1つの場所に1種しか生きられない。」これが地球のおきてです。在来種よりも繁殖力が強い外来種がやってくると、“イス取りゲーム”のように、在来種の居場所はなくなってしまいます。そこにしかない種類の生き物(=固有種)が絶滅してしまう危険があるのです。



メモを取りながら、真剣に参加してくれました！

3 オオキンケイギクばかり生えると、なぜいけないの？

～生物多様性が失われる危機！

「生物多様性」とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのこと。森や川や湿地や海などで生きている全ての生き物は、複雑に関係して絶妙なバランスを保って存在しています。その状態が「生物多様性」です。

知らず知らずのうちに、私たちは生物多様性の恵みを受け取っています。おいしい空気や水、薬、衣類などが周りにはあるのは、生物多様性のおかげなんです。

オオキンケイギクばかりが増えすぎる→そこにいた在来種が絶滅→生き物同士の関係性が崩れる→ほかの生き物にも悪い影響がある・・・という訳です。

4 私たち「人類」も生き物のピラミッドの一部

生き物の絶妙なバランスが崩れると、人類にも影響があるのは免れません。例えば、2021年には、サバクトビバッタの群れが異常発生して、アフリカ・中東・アジアの国々の農作物を食い荒らしました。結果、現地の4,200万人が食糧難に！このままいくと、いずれ人間も生きていけなくなるかも・・・!



5 日本の固有種も絶滅の危機に！

今日本では、3,500種の生き物が絶滅の危機にあるとされています。例えば、私たちが食べるニホンウナギは、国内での生息数が急速に少なくなっていて、絶滅危惧種になっています。このままだと、日本の食文化ウナギの蒲焼きは存在しなくなってしまうかもしれません。

↓みんなで駆除活動に挑戦しました！



5 「オオキンケイギク」を駆除せよ！

校庭のフェンス沿いで、駆除活動を行いました。
根っこを残さないように、引き抜きます。
開花前のつぼみの状態のオオキンケイギクが多かったにもかかわらず、たくさん見つけることができました。

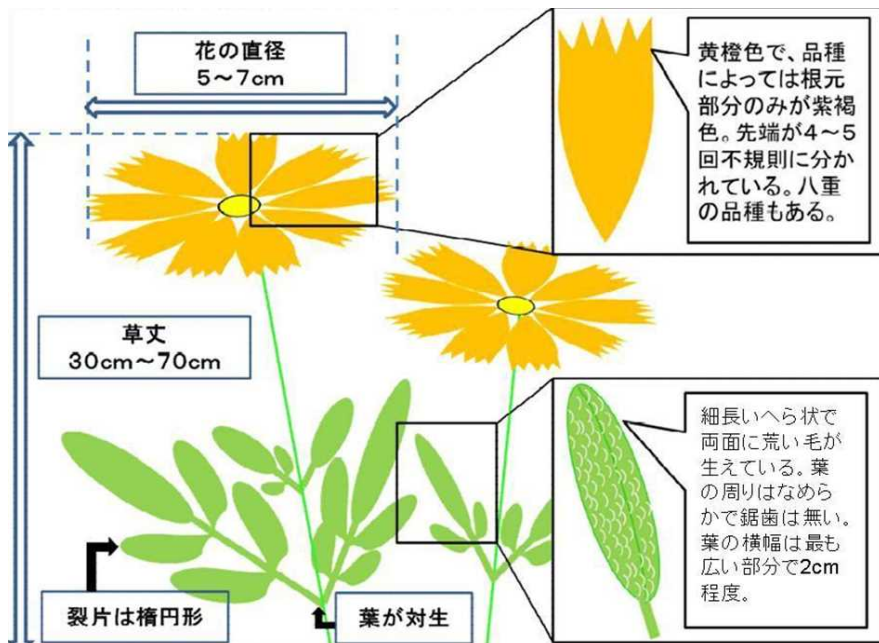
駆除したオオキンケイギクの量は2年前駆除時の半分以下。これまでの駆除活動が確実に結果につながっていることを確認しました。



今回の収穫量は、前回の駆除活動の半分以下！成果が出ています！



💡 オオキンケイギクの特徴



出典 九州地方環境事務所作成「オオキンケイギクの特徴」

6 質問してみよう

「オオキンケイギクはどこにたくさん咲いている？」、「あったかいところ、寒いところ、どちらによく咲く？」、「見つけたらどうしたらいい？」など、いろいろな質問や気づきがありました。

おわりに

自分の近くにも外来種をはじめとする環境問題があることなど、授業をきっかけに、子どもたちに自然環境保護の気持ちが芽生えたのを直に感じました。ご家庭での話し合いを通じて、自然保護の考えが広まることを期待しています。長久手市環境課では、これからも、多種多様な生き物と私たち人間が生きていくことがステキだなと感じる機会をお届けします。

